



TITLE:

本学の蔵書150万部250万冊を突破

AUTHOR(S):

CITATION:

本学の蔵書150万部250万冊を突破. 静脩 1967, 4(1): 3-4

ISSUE DATE:

1967-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36392>

RIGHT:

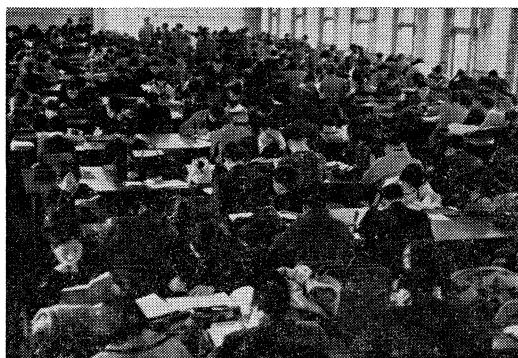
告 知 板

その2 経済学

部図書の利用方法変更について

—経済学部学生の皆さんへ—

すでに図書館や学生控室での掲示で、ご承知のことと思いますが、経済学部の学生諸君が学部所蔵の図書を利用する方法が、この4月から変わりました。附属図書館を通じて借り出す従来の方法を改め、学部閲覧室（法経新館2階西側）において直接取り扱うことになりました。



人・人・人……学年末試験のころ

ただし、人手不足のため、当分の間午前10時から12時までに限ります。なお、戦前購入の外国書については、従来通り図書館閲覧掛を通じて申込んでください。また、ゼミナールで使用する図書については、指導教官の承認をえれば、別に10冊まで借り出すことができます。図書検索を早く確実に行うには、目録カードの種類とか、排列上の約束とか、分類表の体系とかをよく理解することが必要になります。このためのすりものや、実例による案内などを用意してありますが、より詳しくは掛員に遠慮なく尋ねてください。文献の検索は、図書カードによるのが基本ですが、このほかに、各種の出版目録や、特定のテーマについてどのような文献があるかをしめす書誌や抄録誌などを自由に使いこなすことが必要です。閲覧室にはこのような書誌類のほか、事典、年鑑、ハンド・ブックなどの基本的な参考図書を備えていますから、大いに活用してください。

（経済学部図書室）

ニ ュ ー ス ————— ト ピ ッ ク ス

1. 本学和文雑誌総合目録刊行される

本学所蔵雑誌の総合目録の一環として、1965年2月刊の自然科学欧文篇、1966年12月刊の人文科学欧文篇に続いて、このほど和文篇が刊行された。これは和文および中国文・朝鮮文雑誌 9,231タイトル（自然3,692、人文4,809、中国文・朝鮮文730）を1冊（424p.）にまとめて収録したもので、学術雑誌に限らず、一般雑誌・新聞をも含んでいる。今回の刊行によって、既刊の欧文篇とあわせて、本学所蔵雑誌の全容を明らかにした総合目録が一応完成した。これらの目録の作成にあたって部局図書室、教室から寄せられた協力に、改めて厚くお礼申し上げるとともに、多くのかたがたに広く利用されるよう期待している。

2. 本学の蔵書150万部250万冊を突破！

京大附属図書館では部数を単位に登録番号が与えられているが、この3月30日、150万部目が登録された。未整理だった吉田経房（藤原氏・1143—1200）の承安2年（1172）より文治4年（1188）までの日記「吉記」という故実および平安末、鎌倉初期の政局の動きを知る上に貴重な史料1部29冊（この写本28冊は江戸末期の書写で、抜書1冊は室町中期のものと推定される。）がこの日貴重本として登録され150万部目になったのである。（次頁へ）

本館の蔵書は昭和8年で100万冊、昭和34年に200万冊に達し、本年3月には250万冊をこえた。洋書120万、和書130万の割合である。日本の蔵書番付では昭和41年で300万冊をこえた東大には及ばないが、西の横綱格というところである。

3. 開室が待たれるウイルス研究所図書室

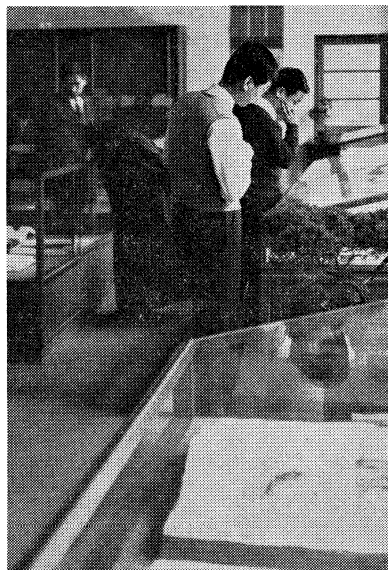
一昨年に着工されたウイルス研究所の新館は、附属病院の西部構内に建てられ本年3月31日竣工を見た。かつて、散在していた各研究部門が総合されることによって、その研究成果は、大いに期待されるものがあるといえる。

ウイルス研究所図書室は、1・2階の南側に設けられ、面積延48m²の閲覧室と事務室、3層の積層式書架を配する延72m²の書庫によって構成され、かつて分散していた図書を集中することによって、より合理的な利用が考えられていると聞く。近く開室されるために、目下、鋭意準備が行なわれつつあり、開室後は医学図書館および結核研究所図書室とともに、スクラムを組むなかでよりよき図書館作りへ一歩一歩前進されるよう希望したいものである。

展 観

○ 京都大学貴重書展

本館では毎年、新入学生を歓迎する意味を含めて、4月に展観を催してきているが、今年も、4月11日より13日までの3日間、「京都大学貴重書展」と銘うった展観を開いた。この展観には、全学・各部局の協力を得て48点が出品され、連日多数の観覧者があった。展観品のおもなものは、奈良絵本6点、御陽成天皇宸翰、近衛信尹書状、鎌倉幕府免許旗章（御用船船章）、1578年刊のステパヌス版プラトン全集、ホップス著「リヴァイアサン」の初版本、デカルト著「省察」の初期刊本（1644）で西田幾太郎博士のサイン入りのもの、カール・マルクス及びエンゲルスの自筆書翰、フレーベル著「母の歌と愛撫の歌」（1844年刊）、中国殷代の甲骨（牛骨と亀甲）、杉田玄白著「解体新書」（安永3年刊）、各種十手、ナウマン象の臼歯、平範記（仁平3年写、重要文化財）その他である。



写真：京都大学貴重書展

○ アメリカ・ペーパー・バック図書展

アメリカ文化センターの後援で4月18日より20日までの3日間、本館陳列室において開催された。自然、人文、社会各分野にわたるペーパー・バック1,200冊を展示した。

○ 英米大学出版局図書展

アメリカ文化センター、英国文化センターの後援により4月24日より26日までの3日間、図書館において「英米大学出版局図書展」が開催された。約5千冊の図書が展示され、盛況裡に終了した。